

アルテック株式会社訪問記

2019. 8月21日 丸山正雄

当会の就労支援事業所イーウィットの職業支援員とともに枚方市長尾家具町3丁目所在のアルテック株式会社を訪問した。初対面であったが、芦田社長様自らが対応くださり、最近就職した利用者の近況並びに作業評価等についての説明を受けた。その後、工場内作業見学の案内を受けた。

この会社は、オーダー注文から受注製造するジュラルミンケース等を生産する会社である。かのMLBで将来の野球殿堂入りが約束されているイチロー選手のバットケースを製造していた会社として有名であり、高価な映像機器を収納するケースの受注も行っている。最近では、スマートホンケースやアイパッドケース等の需要が多いという。それにしても当会から徒歩で10分ほどの距離にこのような会社が存在していることに驚いた。ご近所であるがゆえに、共通の知人も多かった。わらしべ学園を育てる会の松本甫会長（ダイコロ株式会社社長、故人）もその一人であり、親近感が増す。また、30年近く前から精神障害者の就労先として先駆的かつ積極的に受け入れてきたことにも驚きを禁じ得ない。芦田社長曰く、当初は戸惑いの連続であったが、一貫して「障害があっても無くても仕事は同じ、雑用などこの会社には存在しない」、といきる姿勢に圧倒された。当時は専ら保護色の強い障害者の就労状況の中、芦田社長の考え方に批判的な意見も多かったという。実際工場内を見学してみると、各製造部の年間・月間・日間目標が目にとまるところに掲示され、日々の作業日誌には目標が到達できなかった原因を当事者と上司がひざを突き合わせて明確にしていくということがルールとなっている。障害を勘案して当事者の強みを強化していく支援がいわれる中、この会社の基本方針は30年も前から変わらないのである。目標が高すぎても、あるいは低すぎてもダメであり、当事者以上に社員の強い意識づけが肝要という。

私たちの支援はどうだろうか？

障害が重いから、支援者が不足しているから、天候が悪いから等々様々な理由をあげ、できないことは仕方ないこと・・・と他責に転嫁し、その結果、放置という状況を作り出しているのではないか？ 良い仕事をするということは、利用者も自身の目標が明確で、達成できるように努力することであり、我々支援者は、利用者が目標を達成するための環境整備に努め、きちんと記録をとっていきながら利用者の変化を把握することである。アルテック（株）の取り組みを目の当たりにし、考えるところが多々あった。

ただ、アルテック（株）も1972年創業以来順風満帆ではなかったという。オイルショック時に業績が悪化したとき、京セラの稲森盛和さんが立ち上げた若い経営者のための私塾（盛和塾）に薫をもつかむ思いで飛び込んだという。そこでは、経理的な助言は一切なく、つまりPDCA（計画→実行→評価→処置→計画）サイクルをきちんと回すよう繰り返しいわれたという。誠実な仕事とは、良いことをするという判断基準で成り立ち、決して詐欺ま

がいの行為をしてはならない・・・ことがベースにあったという。精神障害者の就労先として30年も前から保護的な就労体制を構築しなかった強い信念は、オイルショック時の厳しい経験があったからと得心できた。

唯一無二の企業を目指し、必死に鍛錬するこの会社の企業理念が哲学・理念・信念であり、人格を磨き、心を清め、より高い思想をもつことと述べる社長の若々しさが（78歳）眩しかった。

社のホームページに社長日記があり、盛和塾から出版された新書のことについて芦田社長が箇条書きで記したものがあったので、転写する。

- ・大きな志を持つこと
気高く素晴らしい夢を描き、追いつける
- ・常に前向きであること
明るい心には必ず幸運が宿る
- ・努力を惜しまないこと
頑張ることをあきらめない人に真の充足感は訪れる
- ・誠実であること
正しいことを正しいままに追求する
- ・創意を凝らすこと
昨日より今日、今日より明日、明日より明後日と改良改善する
- ・挫折にへこたれないこと
災難は天が与える素晴らしい贈り物
- ・心が純粹であること
行動の成功はその心の美しさによる
- ・謙虚であること
自らを愛する心に抑える
- ・良き思いに満ちていること
善き考え方をもち、「他力の風」を味方にする
- ・世の為人の為に行動すること
自己犠牲を厭わず、相手に尽くすこと

とある。芦田社長の発言されたことや人柄とピタリ符合した。生き方に信念がある人とはこういう人を言うのであろう。この会社に注視したい。

以上